

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2025年12月12日

No.6

2026年3月ダイヤ改正の提案を受ける

会社は、2026年3月ダイヤ改正について、「JR貨物グループ中期経営計画2026」の最終年度の商品を決める重要なダイヤ改正となり、2024年問題の解決のみならず、カーボンニュートラルの対応など、当社への期待にしっかり応えるため、複数の地帯間において、列車増発により輸送力増強を検討することを明らかにしました。

《2026年3月ダイヤ改正の主な内容》

1. コンテナ輸送

- (1) 関東→関西間輸送体系の見直し（東京タ→大阪夕間列車新設及び速達化）
- (2) 東海→九州間輸送体系の見直し（名古屋タ→福岡夕間見直しなど）
- (3) 関東・東海・関西⇄東北間輸送体系の見直し（宇都宮タ⇄仙台夕間列車新設・直通輸送力の拡大）
- (4) 新潟⇄関西間臨時列車新設（百済タ⇄新潟夕間下期より運転）
- (5) 大型コンテナ取扱拡大（東京タ⇄東福山両数拡大）
- (6) 広島地区輸送体系の見直し（下関貨物→北九州夕、幡生操→下関貨物間列車新設・途中駅作業変更）
- (7) 輸送力配置と駅作業の適正化
 - ①越谷タ→姫路貨物間輸送体系の見直し（途中作業駅変更）
 - ②静岡貨物→福岡夕間輸送体系の見直し（静岡貨物取扱車数拡大）
 - ③富士行輸送力の拡充（新潟タ→富士間に直行輸送力を設定）
 - ④着発作業駅の見直し

2. 車扱輸送

- (1) 長野地区向け石油列車臨時列車化及び新小岩（信）駅作業の見直し（千葉貨物⇄南松本間臨時列車化）

3. 設備投資

- (1) 電気機関車…合計6両（EF210形式：6両）
- (2) フォークリフト…合計73台（12ft用：53台、20ft用：12台、トップリフター：8台）
- (3) コンテナ…合計4000個（19D形式：2500個、V19B形式：1500個）

4. 列車計画規模（一日あたり）

現行と比較して144.6kmの増（コンテナ列車：+751.4km、車扱列車：-606.8km）

提案を受けるにあたり中央本部は、「1年間の労働条件が決まる大事な労使協議である。組合員が安全に作業できる体制を構築し、ダイヤ改正をはじめ収入拡大施策など、労使でしっかり取り組んで行く必要がある。あわせて、地方協議における議論を尊重すること」と主張しました。

中央本部は今後申し入れを行い、①「職場と仕事と生活」を守り「安全・健康・ゆとり」を基軸とした作業体制の確立。②教育の充実と技術継承の促進。③要員展望を明らかにし、欠員に対する要員対策の実施。④老朽化設備に対する更新の促進及び必要な設備と機材の確保。⑤女性社員が従事する職場の環境改善。⑥乗務労働の特殊性を勘案した休養時間の確保など、各地方本部と連携して、問題点・課題の解決にむけて取り組みます。

以上